

令和5年度 北区地域包括ケアシステム推進会議（議事録要約）

1 日時 令和5年8月24日（木）14時～16時

2 場所 植木文化センター 多目的ホール

3 出席者（敬称略）

平田 貴文、木村 浩美、井手 博美、野尻 晋一、藤本 雅士、福田 奈美恵、
宮田 みづほ、濱松 いくみ、高岡 幸男、竹熊 千晶、西岡 智子（代理）、
松川 美枝、阪本 希望子、原 満喜子、境 俊次、秋吉 展明、中村 雪江
※欠席委員（敬称略）

宮本 大典、本村 幸大、是永 雅之、津地 尚文

4 会長・副会長選出

- ・ 委員の推薦により会長に竹熊委員、会長 の指名により副会長に平田委員を選出

【会長挨拶】

- ・ 校区毎に人口差があると、地域が抱える課題も違っており、人とのつながりやスーパーや病院などの環境資源の有無も違って来るため、地域の特性に合わせて自分のことととらえて活動していく必要がある。
- ・ 行政のできないことを地域住民が自分たちのこととして真剣に考えないといけない。
- ・ コロナ禍で人とのつながりが分断されたが、他方、大事にしなければならないものもわかってきた。それぞれの所属団体の活動の中で課題を抽出するとともに、地域・職場でできることと、その範囲も含めて話し合っていくことが重要。
- ・ 担当を外れても終わりではなく、暮らしていく地域のこととしてとらえ活動していく。一生懸命それぞれの団体でされていることがあるので、そのことを話していきながら、各職域の活動について理解し、何ができるか会議の中で話し合っていく。

5 議事

(1) 事務局説明

○北区地域包括ケアシステム推進方針および北区の取り組み状況について（資料1および資料2）

- ・ AI デマンドタクシーや乗合タクシー等の移動支援に関する質問が多くあった。
- ・ 北区の乗合タクシーは減少しており、利用が少ない理由として、「乗り場へ行くのも大変」や「予約が難しい」との意見があったと聞いている。
- ・ 利便性を向上させるよう対策を考えるべきとの意見があった。
- ・ AI デマンドタクシーを植木地域でも実施する場合、交通関係の対応課や福祉課と連携して対応してほしいとの意見があった。

(2) 情報提供

① 令和4年度日常生活圏域（第3層）会議による地域課題について （資料3）

② 「オンラインによるフレイル予防の取り組み （資料4）

- ・ ささえりあ北部 加世田氏からの事例紹介
- ・ ZOOMで講師と会場をつなぎ、健康運動指導士が健康教室を開催

- ・ 効果として、「専門職 1 人で広いエリアで多くの人に指導可能」、「緩いつながりを好む人にも受け入れやすい」「会場に出向けない人は自宅でも参加可能」などがある。
- ・ 「オンラインの良さが生かされている。」等の意見があった。

(3) 意見交換

- ① 北区地域包括ケアシステム推進会議（第 2 層）で検討、取り組みが必要なこと
- ② 市地域包括ケアシステム会議（第 1 層）の検討事項について

○ 熊本県看護協会 木村委員

- ・ コロナの対応で、保健所の業務として訪問看護で健康観察にまわった際、近隣にお知り合いや家族がおらず、食事準備ができないといった事例があった。介護保険の利用がない場合にはケアマネなど家族等以外の支援が得られず困ることもあった。
- ・ 行政が準備した食品はレトルトが多く、食べにくいものが多かった。
- ・ 食品などの物資を保健所まで取りに戻ると大変だったので、区役所で受け取れたらよかった。健康管理も区で支える仕組みがあるなど、機能的に動ける仕組みがあるとよい。

○ 熊本県栄養士会 井手委員

- ・ 買い物、病院に行けずに、免許返納できないといった課題を聞く。食事も近所に食材等を買えるところがない、食べられるものが売ってないと困る。改善が必要。

○ 熊本県理学療法士会 野尻委員

- ・ 同じ年代の方でも、スマホを利用できる人とそうでない人で、情報格差がある。
- ・ 介護の現場も人手が足りず、新しいもので、埋めていかないといけないが、AI、ロボットは健康福祉の部分では遅れている。現場職員も抵抗がある。次の時期を見据えた準備が必要。

○ 熊本県介護支援専門員協会熊本市支部 藤本委員

- ・ 地域課題については、地域全体のケアマネへの周知はできていないので、地域課題を共有する、または周知していく機会を持ってもらえたらよいと思う。

○ 熊本市食生活改善推進委員北区支部 原委員

- ・ 男性がおひとりになって困るとの意見も受けて、男性の料理教室を開催している。男性は熱心に取り組まれる。コロナで会場が使えず休止していたが、今後取り組みを再開したい。
- ・ 保健こども課の栄養士と共に活動しているが、教室の中では、認知症予防含めて、脳トレのパズルなどに取り組んでいる。
- ・ 高齢者は低栄養が増えているので、今後取り組んでいきたい。

○ 麻生田校区自治協議会長 秋吉委員

- ・ 担い手の不足に関連するが、麻生田校区では、福祉協力員の設置をした。
- ・ 民生委員の減少、2025 年問題、超高齢社会の深刻さの問題などの中で、民生児童員を支えて高齢者に寄り添い、問題が発生したときには傷口が大きくなる前に対応できるといいと思っている。

徐々に地域に溶け込んでいながら活動を進めていきたい。

- ・ 活動状況は、安否確認、イベント参加などで、民生委員ではないため、個人情報等の課題もあるが、民生委員のお手伝いをし、支えていこうと考えている。
- 山本校区自治協議会長 境委員
- ・ 自治会には、福祉関係、生活全般のすべての相談があがってくる。各団体の課題があがってきて、いろんな問題が山ほどある。少しでも解決していこうと自治会関係の方は頑張っている。
 - ・ (担い手の不足などの) 課題は言うだけでは仕方ない。交流していくなかで人材を発掘していくなど考えて動く必要がある。
- 武蔵民生委員児童委員協議会長 中村委員
- ・ 武蔵校区は、ふれあいサロンが軌道にのったところ。月3～4回開催。男性の参加が少ないので、男性の参加をメインに考え、筋力を鍛える機械を使って会を開催予定。
 - ・ 武蔵校区も協力者と一緒にサロンなどを盛り上げていっていったらと思う。
 - ・ 武蔵校区は買い物には不自由しない地域。
- 民生委員児童委員協議会 宮田委員
- ・ コロナ禍で今までやっていた活動がほとんどできなくなった。そんな中、高齢者は足腰が弱ったり、転倒されたり、認知症になられたりされた。サロンを再開したが、施設入所などで参加は減少しており、交流の場が大切と感じる。足腰が弱らないように認知症にならないように、声掛けを継続していきたい。
- 認知症の人と家族の会熊本県支部 濱松委員
- ・ 2025年には、5人に1人は認知症になると予測されている。
 - ・ アルツハイマーの治療薬が承認され、課題もあるが希望もあると考える。
 - ・ 認知症コールセンターへの相談は、電話相談が主で、認知症の親の対応についてなど、県外からの相談もある。つどいの場も開催している。
- 熊本北合志警察署生活安全課 西岡様
- ・ 高齢者に関する事案は、行方不明事案、迷子事案、高齢者夫婦でのトラブル事案が多くなっている。親族と交流が乏しいといわれることが多いので、その後の見守り体制を作っていくことが難しいと感じる。ささえりあや行政と連携している。今後ご協力お願いしたい。
- 社会福祉法人 熊本市社会福祉協議会 福田委員
- ・ 北区 22 校区において、校区社協行動計画を策定中。地域の課題を共有し、どう解決するか取り組みの計画をするもの。
 - ・ 移動手段については、乗合タクシーなど知らない人も多いので、社協も周知活動の協力やルートについて要望をあげるよう意見もある。

- いきいき未来のつどい実行委員会 高岡委員
 - ・ 「いきいき未来のつどい」は、今年10月に講演会を開催予定。

- 熊本市障がい者相談支援センター チャレンジ 松川委員
 - ・ 障がい者や障がいの疑いがあるが、医療機関受診につながっていないケース、世帯全体で支えが必要なケースが少しずつ増えている。
 - ・ 障がい者の親が高齢になりサポートができなくなる相談も増えている。
 - ・ 障害の分野でも高齢者と同じような課題があがっている。

- 熊本市障がい者相談支援センター アシスト 阪本委員
 - ・ 昨年の地域包括ケアシステム推進会議で、高齢が主な話題だったので、地域包括に障がいをいれてもらえないかと話をさせていただいた。
 - ・ 海外企業の進出により海外移住者が増えることが見込まれ、海外移住者の支援について不安に思っている。課題はグローバルになってくると感じる。

- 平田副会長
 - ・ 植木町は、人口は3万人いないし、面積は広い。菊陽町に隣接する地域と植木では違う。このように、北区の中でも、地域ごとに病院や交通手段などの資源や課題が異なる。
 - ・ どの問題を優先するのは、人口の多い、少ないで決めることはできないので、判断は難しい。いろんな意見を出し合い10年先も地域で過ごしていくことを考えていきたい。全部が解決できるとは思えないが、みんなで知恵を出し合って、優先すべきことを話し合っていかなければならない。また具現化できたらよい。
 - ・ オンラインのフレイル予防の取り組みはすばらしい。こういった情報を利用者にどうつないでいくかが重要。個人的には高齢者に限って言えば、情報のつなぎにはケアマネの力が大きい。民生委員含めたみなさんの力も必要。

- 竹熊会長
 - ・ マイナスばかり言っても仕方ないので、それぞれできることをしながら、つないでいく必要がある。みんなの力を借りながら、会議の中身のことも生かしていきたい。

【総評】

- ・ 委員それぞれの立場の活動や課題、その取り組み状況が共有できた。
- ・ 市地域包括ケアシステム会議（第1層）へは、移動支援について検討課題としてあげたい。